

第8部会

1. セッション I で討議された内容（各校からキャリアガイダンスの現状と課題について報告）

（大学）報告者 大学就職センター 吉岡国明

最初に大学の就職・進路状況の説明があり、共通認識を持った上でキャリアガイダンス実績報告がなされた。現在、就職希望者の就職率は好調を維持している一方、就職希望率の低下が大きな課題となっており、キャリアガイダンスの多様化及び早期化で対応をしている。具体的な事例として、2001年4月から開講されたインターンシップ授業、低学年からの就労観の醸成を目的とした科目導入の検討等が報告された。

（女子聖学院）報告者 女子聖学院 佐藤逸子

女子聖学院の進路指導について

単なる受験指導ではなく、各自が与えられた賜物をいかに活かすかを目標とし、自主性を重んじながら進路指導を行っている。

中高一貫校の特長を生かし学年毎の段階別指導を行い、将来のキャリアプランから考えさせ、最終の志望大学決定までに至るキャリアガイダンスを計画的に進めている。具体的には中3で職業興味検査と仕事探索、高1で学部学科探索、高2でオープンキャンパス訪問の課題などを課し、高3次に第一志望大学の合格を目指す。また、2000年度より進路ハンドブックを制作し、好評である。課題としては大学入試変革の速さ、予備校との関係、2003年度高校カリキュラム変更など様々な変化等、状況に対応できるかが課題となっている。その中で自分の進路は自分の責任において決定することがより一層重要になることを指導したいと報告された。

2000年度実施「職業意識調査報告」（2000年10月中高大学生対象に実施）について

前年度に本部会で実施した標記の調査結果について詳細な分析の報告があった。概ね良好な結果が得られ、将来の職業について前向きに考えている生徒、学生が多く、また、中高では進級するにつれて人のためになる仕事をしたい生徒が増えており、聖学院教育の成果、良さが確認された。

（男子聖学院）報告者 男子聖学院 権頭 史

1994年から選抜クラス・教科内希望コース制・グレード別授業、勉強合宿などのきめの細かい学習指導を行い、大きな成果をあげている。中高を取り巻く大きな変化の中で、進路指導と学習指導の転換、良き伝統の保持とのバランスを考えさらなる改革に取り組んでいる。

2003年に向けて「内なる賜物(タラント)の探求 - ナンバーワンからオンリーワンへ」を進路指導の目標に掲げ、低学年からのキャリアガイダンス・対話と交流による「学び」意識の活性化・学習指導と進路指導の融合・進路手引きの作成の4点を重点項目として進路指導を推進することが報告された。

2. セッションIIで討議された内容

セッション の各校からの報告を受け、質疑応答及びフリーディスカッションを行った。

- ・ コミュニティー政策学科では第1期生の就職実績が注目されるので、11月に「公務員の仕事案内」来年には公務員試験対策講座の開講を予定している。
- ・ 入学後、進路変更があった場合の大学の対応策として、転部転科制度が導入されており、また、就職に際しては他学科の就職先が利用できる強みがある。
- ・ 男女共同参画社会計画が推進されているが女子聖学院では進学相談が主であり、職場で起こる男女の格差問題まで考える女子学生はほとんどいない。
- ・ 男子聖学院では2極分化が進んでいるが上位層の生徒は入学時の成績ではなく低学年次に学習する習慣をつけたかどうか大きなポイントとなっている。低学年次からの動機付けが重要であり、中三の夏期勉強合宿・ネイチャートリップなどが大きな成果をあげている。

総括 柴田部会長

聖学院グループの中高大が一堂に会し、ひとつのテーマ“キャリアガイダンス”について討議する機会を通して、活発な情報交換、密度の濃いコミュニケーションが図れた。

教育会議という貴重な時間の共有によって、オール聖学院としての中高大の連携がより一層深まり、3年目の来年に向けて中高大がキャリアガイダンスを通じて具体的な交流の場を実現できるよう取り組みたい。さらにキャリアプランを考える、決定する行為に最も必要とされる“自立心を育む”こともキャリアガイダンス部会の重要課題として併せて取り組むことを決定した。

3. セッションIIで討議された内容

- 学習意欲のさらなる向上を目指したキャリアガイダンスの早期導入
- そのためのキャリアガイダンス・プログラムの作成
- 各校の情報交換・意見交換の継続
- 各校のキャリアガイダンス・プログラムを共有し、実践的に交流する
- 大学におけるキャリアガイダンス科目の導入
- キャリアガイダンスを直接担当しない各教員の進路指導意識の高揚

(報告者：柴田 武男)